



TA90002-5659 06Q

TA90002-5659

必ずお読みください

GW1500 スタートガイド

このたびは、GW1500（以降、本装置と記載）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本装置は、富士通のFENICS II M2M サービスでご使用いただけるゲートウェイ装置です。他の用途ではご使用いただけません。

本書は、本装置を使用する前に知っておいていただきたいことや、本装置の設置方法および設定方法について説明しています。

本装置をご使用になる前に、必ず本書をお読みください。

2014年9月 初版

2015年6月 第2版

2015年8月 第3版

2015年12月 第4版

2017年12月 第5版

2020年4月 第6版


FUJITSU

本マニュアルは、再生紙を使用しています。

本ドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。

従って本ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

目次

本書の構成と使い方	4
安全上のご注意	6
第 1 章 お使いになる前に	12
1.1 梱包内容 / 各部の名称と働き	12
1.1.1 梱包内容	12
1.1.2 本装置 前面	13
1.1.3 本装置 背面 / ランプ	13
1.1.4 本装置 上面 / ランプ	14
1.1.5 本装置 底面	15
1.1.6 本装置 側面	16
1.2 オプション	16
第 2 章 本装置の設置	17
2.1 設置環境の確認	17
2.1.1 設置条件の確認	17
2.1.2 設置（保守）スペースの確認	19
2.2 本装置の設置	21
2.2.1 設置形態	21
2.2.2 卓上設置	21
2.2.3 壁掛け設置	22
2.3 モバイルアダプターの接続	26
第 3 章 本装置の設定	28
3.1 本装置と設定用パソコンの接続	28
3.2 本装置の電源投入	29
3.3 設定用パソコンの IP アドレス設定	31
3.4 本装置へのログイン	33
3.5 本装置に対する設定	33
3.5.1 本装置の時刻設定	34
3.5.2 本装置の固有情報（ID/ パスワード）の設定	34
3.5.3 ライセンス情報の設定	35
3.5.4 本装置の IP アドレスの設定	36
3.5.5 本装置の拠点 LAN 側からの ICMP エコー応答（Ping 応答）の有効無効の設定（V02L02 以降）	36
3.5.6 本装置に接続する機器に関する情報の設定	37
3.5.7 設定後の作業	38
FCC について	41
使用許諾について	41

本書の構成と使い方

本書を効果的に活用していただく上で、知っておいていただきたいことを説明しています。

マニュアル体系

本装置には、以下のマニュアルがあります。

目的に応じてお読みください。

マニュアル名称	内容
『スタートガイド』 (本書)	本装置を使用する前に知っておいていただきたいことや、本装置の設置方法および設定方法について説明しています。 開梱後、最初にお読みください。
『取扱説明書』	本装置の概要、機能、コマンドの仕様、およびトラブルの対処方法について説明しています。 必要に応じてお読みください。



- 『スタートガイド』は本書とは別に、Web 公開もされています。
- 本書は、コマンドラインインターフェースでの操作方法を説明しています。Web コンソールでの操作方法については、『取扱説明書』の「Web コンソールガイド」を参照してください。
- 『取扱説明書』は、Web でのみ公開されています。
- Web 公開のマニュアル (PDF) のダウンロードについては、巻末の「[GW1500のホームページ](#)」を参照してください。
- PDF のマニュアルをご覧になる場合は、PDF 閲覧ソフト Adobe Reader が必要になります。



注意！

本装置をご使用いただくに当たって、マニュアルを熟読し、正しく運用してください。また、マニュアルは大切に保管してください。

対象読者と前提知識

本書は、本装置を導入して、設置および設定を行う方を対象としています。本書を利用するにあたって、以下の知識が必要です。

- 使用する環境のオペレーティングシステムの基本的な知識、および操作方法
- ネットワークに関する基本的な知識

本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

- [第1章 お使いになる前に](#)

本装置の梱包内容、各部の名称と働き、オプションについて説明しています。

- [第2章 本装置の設置](#)

本装置を設置する際の条件や設置手順について説明しています。

- [第3章 本装置の設定](#)

本装置の設定方法について説明しています。

- [FCCについて、使用許諾について](#)

FCCに関する注意事項、Java SE Embeddedの使用条件、オープンソースソフトウェア（OSS）の取り扱い、および改造とリバースエンジニアリングを許諾するプログラムについて説明しています。

本書で使用しているマーク

本書で使用しているマークは、以下のような内容を表しています。



注意していただきたいことや、してはいけないことを記載しています。必ずお読みください。



本装置に関する補足情報を説明しています。
必要に応じてお読みください。



製造物責任法（PL）関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



製造物責任法（PL）関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

製品名の略称

本書で使用している製品名は、以下のように略記しています。

製品名称	本書中の略記
Microsoft® Windows® 7 Home Premium operating system 日本語版	Windows 7
Microsoft® Windows® 7 Professional operating system 日本語版	

本書における商標の表記

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。



UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

本書に記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示（®、™）を付記していません。

安全上のご注意

警告表示について

本書には、本装置を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。

お使いになる人や他の人への損害、財産への危害を未然に防ぐため、以下の表示と記号の意味、内容を熟読・理解の上、本装置をご使用ください。

記号	記号の意味
	△で表示された記号は、警告や注意事項を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	○で表示された記号は、してはいけない禁止行為を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	●で表示された記号は、必ず従っていただく行為の強制、指示を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。

**警告**

本装置を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。

警告事項	
 分解禁止	本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。 感電・火災・故障の原因となります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で、DCコードまたはACアダプターを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。
 禁止	 注意
DCコードまたはACアダプターを傷つけたり、加工したりしないでください。 DCコードまたはACアダプターの上に物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、ケーブルを傷めないでください。 ケーブルを束ねた状態で使用しないでください。 感電や火災のおそれがあります。その他のケーブル類も同様です。	小さな部品（取り外したネジなど）は、小さなお子さまが誤って飲み込むことがないように、小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。 万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
 異物禁止	 プラグを抜く
本装置の内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落したりしないでください。 また、水などの液体を入れないでください。 万一、異物や液体が入った場合は、まずDCコードまたはACアダプターのプラグをコンセントから抜いて、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。そのまま使用すると、感電・火災・故障の原因となります。	万一、発熱、発煙、異臭がするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止してください。 すぐにDCコードまたはACアダプターのプラグをコンセントから抜き、煙などの異常が出なくなるのを確認し、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
 接触禁止	 禁止
近くで雷が発生したときは、本装置、DCコードまたはACアダプター、およびその他のケーブルに触れないでください。 感電の原因となります。	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。 また、タコ足配線をしないでください。 感電・火災の原因となります。
 禁止	 注意
DCコードまたはACアダプターのプラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。	梱包に使用しているビニール袋は、お子さまが口に入れたり、かぶって遊んだりしないようにしてください。 窒息の原因となります。
 禁止	 禁止
インターフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。感電・故障の原因となります。	清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。 火災・故障の原因となります。

**注意**

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

注意事項	
 禁止 電源が入っている状態で本装置に長時間（1分以上）触れないでください。 低温火傷の原因となることがあります。	 禁止 本装置を段積みしないでください。 落下による負傷・破損・故障の原因となります。
 禁止 本装置の上に物を置いたり、本装置の上で作業したりしないでください。 本装置が破損・故障したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。	 禁止 電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。 故障の原因となります。
 ！ 本装置は、屋内に設置してください。 屋外に設置すると故障の原因となります。	 禁止 直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。
 禁止 極端な高温または低温状態や温度変化の激しい場所で使用しないでください。 故障の原因となります。本装置の使用温度範囲を守ってください。	 禁止 本装置を薬品の噴霧気中や薬品に触れる場所など腐食性ガス発生環境下では使用しないでください。 破損・故障の原因となります。
 禁止 本装置をぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しないでください。 また、強い衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。 落下によるけが・破損・故障の原因となります。	 ！ ケーブル処理に必要な空間をとってください。 本装置を並べて使用する場合でも、それぞれに必要なサービスエリアを設けてください。 ケーブルの障害や故障の原因となります。
 ！ 本装置を移動するときは、必ずDCコードからの給電を停止してDCコードを抜くか、ACアダプターをコンセントから抜いてください。 故障の原因となります。	 ！ ACアダプターの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。 そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
 ！ 配線工事は、正しく行ってください。 正しい配線工事を行わないと正常な通信が行えないだけでなく、本装置の故障にもつながります。	 ！ ACアダプターのプラグは、コンセントに確実に奥まで差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。
 ！ ACアダプターは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。	 ！ 同梱のDCコード、またはオプションのACアダプターをお使いください。 上記以外の製品を使用した場合、感電・火災のおそれや、故障の原因となります。
 禁止 ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。	 禁止 使用中の本装置を布で覆ったり、包んだりしないでください。 熱がこもり、火災の原因となることがあります。

メンテナンスに関する注意

- 決してご自身では修理を行わないでください。故障の際は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。
- 本装置をご自身で分解したり改造したりしないでください。本装置の内部には、高電圧の部分および高温の部分があり危険です。

使用上の注意

- 本装置を安定した状態でご使用になれる期間は、動作保証範囲内の温度で5年が目安です。
- 提供されるマニュアル、装置本体、およびソフトウェアは、お客様の責任においてご使用ください。
- 本装置の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切責任を負いかねます。また、本装置の障害の保証範囲はいかなる場合も、本装置の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- 本装置にて提供されるソフトウェアおよび本装置用として弊社より提供される更新用ソフトウェアを、本装置に組み込んで使用する以外の方法で使用すること、また、["使用許諾について" \(P.41\)](#) で許諾している内容を除いて、改変や分解を行うことは一切許可しておりません。

グリーン製品

本製品は、弊社の厳しい環境評価基準をクリアした地球に優しい、環境への負荷の少ない「グリーン製品」です。



●主な特長

- 小型／省資源化
- 節電機能保有
- 再資源化率が高い

このマークは富士通株式会社のグリーン製品の評価基準に適合したグリーン製品に表示しています。富士通の環境についての取り組みの詳細は、富士通ホームページの以下のページ（環境活動）をご覧ください。

<http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/>

ハイセイフティ

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

電波障害自主規制

この装置は、クラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的にしていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

『スタートガイド』、『取扱説明書』に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクル

法人のお客様から排出される弊社製品は「事業系IT製品リサイクルサービス」（有料）にて回収、リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでいます。

本製品の廃棄については、富士通ホームページの以下のページ（IT製品の処分・リサイクル）をご覧ください。

<http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/recycleinfo/>

高調波電流規格

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

取り扱い上の注意

本装置を取り扱うときは、以下の点に注意してください。

- 本装置の構成定義情報は、設定完了後にお客様自身で管理・保管してください。万一、故障発生時に弊社で復旧作業を行う場合は、お客様で管理・保管していただいている構成定義情報を使用させていただきます。この構成定義情報をお客様からご提供いただけない場合は、復旧までに時間がかかる場合があります。構成定義情報は、適宜バックアップを取り、最新状態のものを管理・保管してください。
- 本装置は、雷や静電気などに対する保護回路を内蔵しています。そのため、雷や静電気などが装置内に入ると、一部機能が使用できなくなることがあります。この場合、装置の電源を再投入することで正常な状態に復旧します。なお、電源を再投入しても一部機能が使用できない、または、電源が入らない場合は、「保護回路で保護しきれない状態となり装置が破壊された」と考えられます。このような場合は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。
- 基本ソフトウェアの更新中は、絶対に電源の切断またはリセットを行わないでください。更新中に電源を切断またはリセットした場合は、装置が起動しなくなります。
- 万一、本装置が故障して修理品と交換した場合、修理品の基本ソフトウェア版数と、故障時の基本ソフトウェア版数が異なる場合があります。復旧をスムーズに行うためにも、現状の基本ソフトウェア版数を控えておくことをお勧めします。
基本ソフトウェア版数は、show version コマンドで確認することができます。
show version コマンドの詳細は、『取扱説明書』の"■ show version"を参照してください。
- 本装置には、IP アドレスなど、お客様固有の情報が含まれています。本装置が故障して、修理のため本装置を弊社に送付する場合には、『取扱説明書』の"装置故障時には"を参照し、事前にお客様固有の情報を消去してください。
- 本装置またはオプションのACアダプターを欧州に輸出して利用する場合は、輸入する事業者または代理者の情報が記載された輸入者ラベル("1.1.5 本装置 底面" (P.15) を参照) を、本装置またはACアダプターに貼付する必要があります。

第1章 お使いになる前に

この章では、本装置の梱包内容、各部の名称と働き、オプションについて説明します。

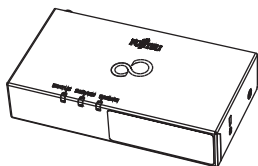
1.1 梱包内容 / 各部の名称と働き

本装置をお使いになる前に、梱包内容を確認してください。

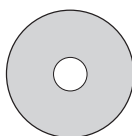
1.1.1 梱包内容

本装置には、以下のものが同梱されています。すべてそろっていることを確認してください。

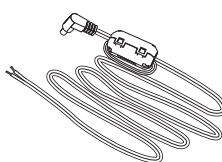
☐ 本体



☐ ソフトウェアCD



☐ DCコード



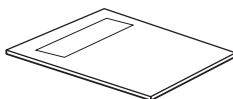
☐ ゴム足
(4個)



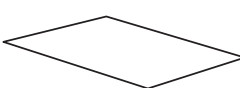
☐ ネジ
(4個)



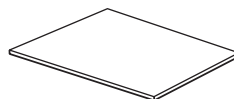
☐ スタートガイド



☐ 製品保証書

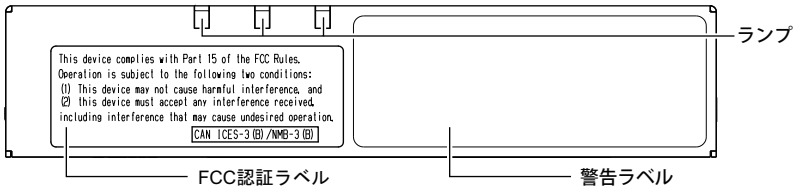


☐ 安全上のご注意



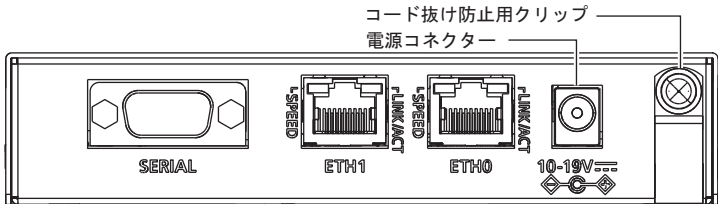
- 本体 本装置のことです。
- ソフトウェアCD 本装置に搭載されているオープンソースソフトウェア（以下「OSS」といいます）の使用許諾条件一覧、OSSのうちGNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2、GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1が適用されるもののソースコード、およびJava SEに含まれる第三者の著作権、使用条件などが格納されています。
- DCコード 本装置と給電側装置をつなぐコードです。
- ゴム足（4個） 本装置を卓上に設置する場合に、本装置に取り付けるゴム足です。
- ネジ（4個） ゴム足を固定するためのネジです。
- スタートガイド 本書のことです。
- 製品保証書 本装置の保証書です。
- 安全上のご注意 本装置を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。

1.1.2 本装置 前面



- FCC 認証ラベル FCC/ICES-3の認証ラベルです。
- 警告ラベル 本装置の使用上の注意が記載されています。
- ランプ 詳細は、"[1.1.4 本装置 上面/ランプ](#)" (P.14) を参照してください。

1.1.3 本装置 背面/ランプ



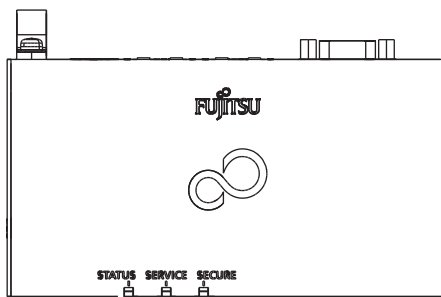
- SERIAL (RS232C、D-sub9 ピン) お客様のシリアルデバイスの接続ポートとして使用します。DCEとして動作します。
- ETH1 (10/100BASE-TX) お客様のIP デバイスの接続ポートとして使用します。MDI-Xとして動作します。Auto MDI/MDI-Xをサポートしています。
- ETH0 (10/100BASE-TX) センター側ポートとして使用します。MDIとして動作します。Auto MDI/MDI-Xをサポートしています。
- 電源コネクタ 同梱のDCコード、またはACアダプター（オプション）を接続します。
- コード抜け防止用クリップ 同梱のDCコード、またはACアダプター（オプション）を本装置に固定するためのナイロンクリップです。

ランプの詳細を以下に示します。

ランプ名	ランプの色	状態	表示条件
ETH1 の LINK/ACT	-	消灯	ETH1 ポートのリンクが未確立状態であることを示す
	緑	点滅	ETH1 ポートが通信中の状態であることを示す
		点灯	ETH1 ポートのリンクが確立状態であることを示す

ランプ名	ランプの色	状態	表示条件
ETH1 の SPEED	-	消灯	通信速度が 10BASE-T であることを示す
	緑	点灯	通信速度が 100BASE-T であることを示す
ETH0 の LINK/ACT	-	消灯	ETH0 ポートのリンクが未確立状態であることを示す
	緑	点滅	ETH0 ポートが通信中の状態であることを示す
		点灯	ETH0 ポートのリンクが確立状態であることを示す
ETH0 の SPEED	-	消灯	通信速度が 10BASE-T であることを示す
	緑	点灯	通信速度が 100BASE-T であることを示す

1.1.4 本装置 上面/ランプ



- STATUS ランプ 本装置の状態（電源オフ/起動中/通常動作中）を確認できます。
- SERVICE ランプ センターとの接続状態を確認できます。
- SECURE ランプ SSL-VPN による通信が確立しているかどうかを確認できます。

ランプの詳細を以下に示します。

ランプ名	ランプの色	状態	表示条件	備考
STATUS	—	消灯	電源が投入されていないことを示す	—
	緑	点灯	本装置が通常の動作状態であることを示す	—
	赤	点滅	工場出荷時の初期状態にリセット中であることを示す	SERVICE ランプと同時点滅
		点灯	本装置に異常が発生していることを示す	—
	橙	点灯	ソフトウェアの状態を示す	システムログで状態を確認してください
SERVICE	—	消灯	センターと未接続状態であることを示す	—
	緑	点滅	センターから構成定義を取得中であることを示す	—
		点灯	構成定義の反映が完了していることを示す	—

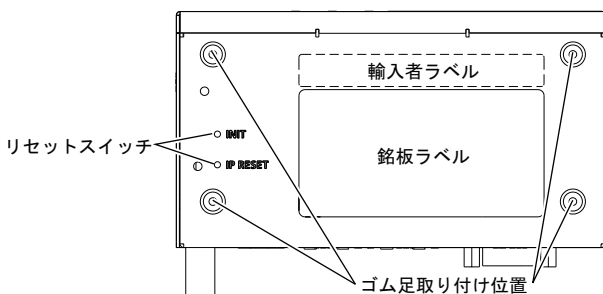
ランプ名	ランプの色	状態	表示条件	備考
SERVICE	赤	点滅	工場出荷時の初期状態にリセット中であることを示す	STATUSランプと同時点滅
		点灯	IPアドレスの初期化中であることを示す	—
SECURE	—	消灯	SSL-VPN接続または閉域PPP接続が確立されていないことを示す	—
		点滅	SSL-VPN接続または閉域PPP接続（下り通信不可）	—
		点灯	SSL-VPN接続または閉域PPP接続（双方向通信可能）	—



注意！

- 本装置を起動した直後は、STATUSランプおよびSERVICEランプが赤色や橙色に点灯しますが故障ではありません。その後、STATUSランプが緑色に点滅したあと、点灯状態になると本装置が正常に起動したことを示します。5分経過してもSTATUSランプが緑色に点灯しない場合は装置故障の可能性があるので、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。
- 富士通 M2M サービス (FENICS) と接続しない場合は、SERVICEランプはセンサーとの接続状態とは関係なく、サービスが可能となった時点で直ちに緑点灯します。また、SECUREランプの青色点滅状態はありません。

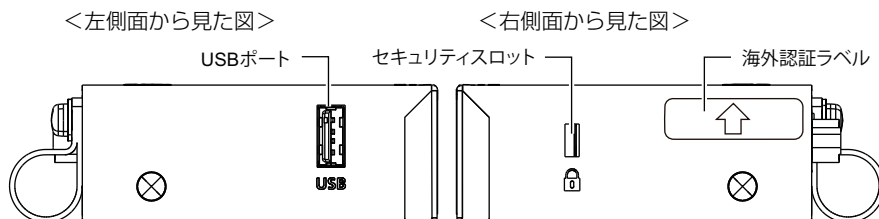
1.1.5 本装置 底面



- リセットスイッチ（INIT）
工場出荷時の設定内容（初期状態）に戻す場合に長押しします（約2秒間）。
- リセットスイッチ（IP RESET）
本装置のIPアドレスを初期化する場合に長押しします（約2秒間）。
- ゴム足取り付け位置
本装置を卓上で使用する場合に、ゴム足を取り付ける位置を示します。装置底面の四隅に合わせて、取り付けてください（4箇所）。

- 輸入者ラベル
欧州に輸出して利用する場合に必要なラベルです。通常は貼られていません。必要な場合は、弊社の担当営業までご相談ください。
- 銘板ラベル
本装置の型名、製造年月、シリアル番号、MACアドレス（ETH0ポート）、技術基準適合認定番号、各国で利用する場合に取得が必要な認証のマークなどが記載されています。

1.1.6 本装置 側面



- USB ポート（USB2.0 準拠）
オプションのモバイルアダプターを接続します。
モバイルアダプターは、本装置とセンター間の接続において、GSM または 3G による無線通信を行う場合に使用します。
- セキュリティスロット（V1.2 互換）
市販の盗難防止用ワイヤーを接続します。セキュリティスロットは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
盗難防止用ケーブルは、以下のものを購入してください。ほかの類似のケーブルは取り付けられない場合があります。
商品名 : サンワサプライ ノートパソコンセキュリティキット
商品番号 : SL-38 (1705943)
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせの電話番号 : 0120-505-279)
- 海外認証ラベル
海外へ輸出して利用する場合に必要なラベルです。
海外へ輸出して利用するには、対象国で必要な認証を取得している必要があります。
本装置が輸出可能な国については、弊社の担当営業にお問い合わせください。

1.2 オプション

本製品のオプションについては『取扱説明書』のオプションの記載を参照してください。



- オプションは、必ず専用品を使用してください。
- オプションをご使用になる前に、「取扱説明書」や「ご使用になる前に」など、各オプションに添付されているドキュメントを必ずお読みください。

第2章 本装置の設置

この章では、本装置を設置する際の条件や設置手順について説明します。

2.1 設置環境の確認

設置する前に、以下のことを確認してください。

- 本書に記載されている "1.1.1 梱包内容" (P.12) がすべてそろっている。
- 各インターフェースコネクタに接続するケーブルが、各インターフェースの用途に適合している。

⚠ 警告

インターフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを差し込まないでください。感電・故障の原因となります。

2.1.1 設置条件の確認

本装置では、以下の環境を確保して設置してください。

⚠ 注意

以下の条件を守って設置してください。条件以外の環境で本装置を使用すると、故障の原因となります。

電源条件

以下の電氣的条件下でご使用ください。

項目	条件
入力電圧	DC10V～19V
ACアダプター (オプション)	入力：AC100V～240V 出力：DC12V
最大消費電力	12W
突入電流 (DC入力)	1.5A以下
リップル	240mVp-p 以下

※ 電源入力が瞬断すると、本装置は再起動します。

絶対最大定格

絶対最大定格は以下のとおりです。

項目	条件
入力電圧	DC20V

使用環境

以下の環境下でご使用ください。

項目	条件	備考
機器の分類	クラスⅢ機器	危険電圧回路から二重絶縁または強化絶縁で分離された回路

温湿度条件

温湿度条件は以下のとおりです。

項目	条件	備考
温度	動作周囲温度	-20℃～+55℃
	保存周囲温度	-30℃～+65℃
湿度	動作周囲湿度	15%～85%
	保存周囲湿度	8%～90%

設置条件

以下の設置条件でご使用ください。

設置形態	条件
卓上設置	本装置にゴム足（同梱）とネジ（同梱）を取り付けてご使用ください。 ※ 本装置は、横置きのみ可能です（縦置きは禁止です）。
壁掛け設置	以下のいずれかの方法で設置してください。 - マグネットシート（オプション）を使用する - 壁掛用品（オプション）を使用する



オプションは必ず専用品を使用してください。

オプションについては、『取扱説明書』を参照してください。

チェックリスト

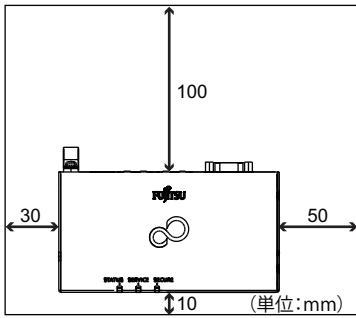
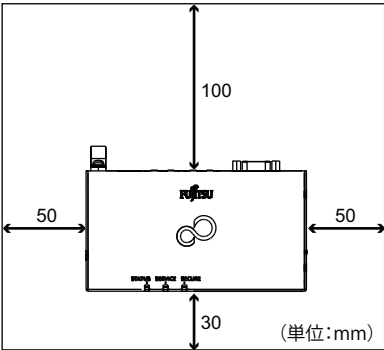
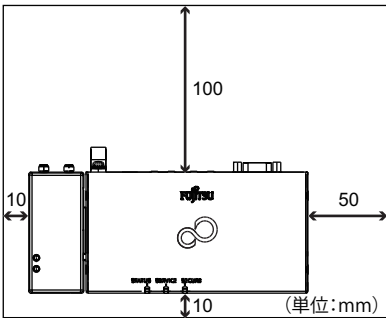
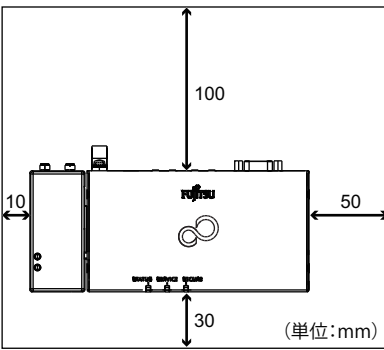
条件が守られているかを以下のチェックリストで確認してください。

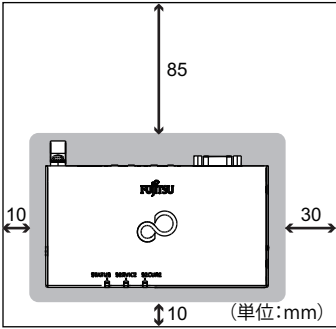
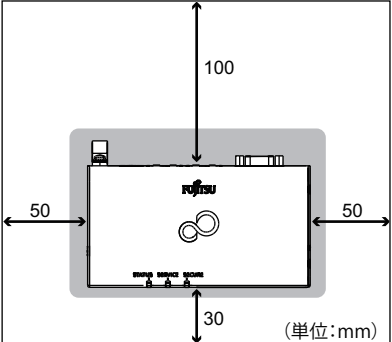
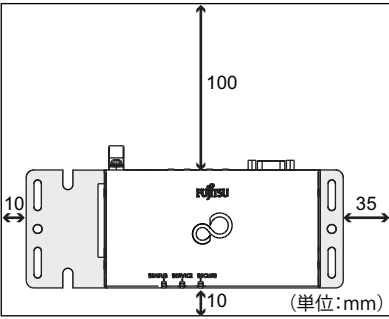
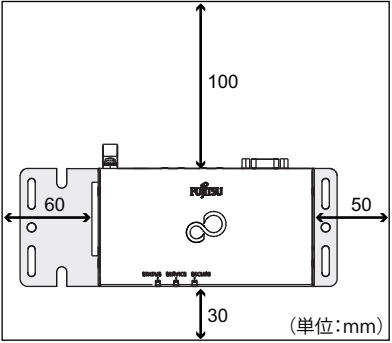
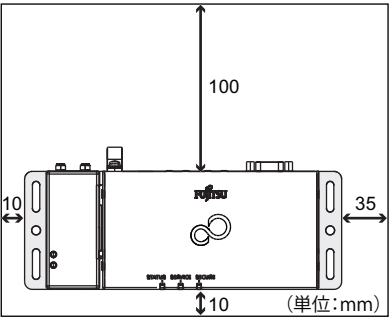
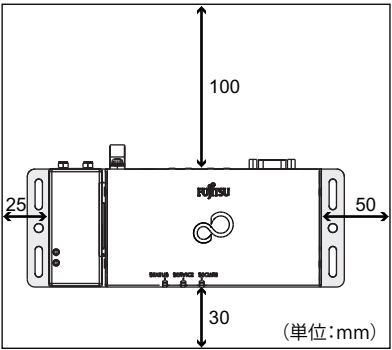
チェック内容	チェック結果
本装置の上に物をのせていない	
本装置を縦置きにしていない	
本装置の設置場所は直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所ではない	
本装置の設置場所は振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所ではない	
本書の "安全上のご注意" (P.6) を読みました	

2.1.2 設置（保守）スペースの確認

本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

- ・ 前面：ランプの確認、装置の設置作業が可能なスペースを確保してください。
- ・ 背面：コネクタの挿抜作業が可能なスペースを確保してください。

設置		設置スペース	保守スペース
卓上設置	モバイルアダプターなし		
	モバイルアダプターあり		

設置		設置スペース	保守スペース
壁掛け設置	マグネットシート使用時	 (単位:mm)	 (単位:mm)
	モバイルアダプターなし	 (単位:mm)	 (単位:mm)
	モバイルアダプターあり	 (単位:mm)	 (単位:mm)

2.2 本装置の設置

本装置の設置方法について説明します。

設置する前に、本装置が電源オフの状態であることと、設置環境を確認してください。



- 電源オフのときは、本装置前面の STATUS ランプが消灯しています。
- 設置環境については、"[2.1 設置環境の確認](#)" (P.17) を参照してください。

2.2.1 設置形態

本装置は、卓上設置または壁掛け設置の形態で設置することができます。

2.2.2 卓上設置

本装置は、平らな卓上に置いて運用することができます。

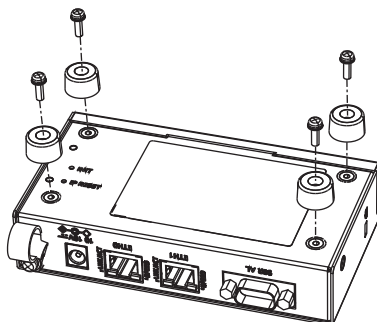
同梱のゴム足（4 個）とネジ（4 個）を用意します。



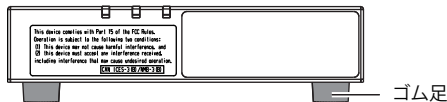
- 本装置は縦置きにしないでください。落下によるけが・破損・故障の原因となります。
- 本装置の上に他の装置を積み重ねて設置しないでください。装置が高温になり、故障または装置寿命に影響を与えるおそれがあります。

【設置手順】

1. 本装置の底面を上にして平面上に置きます。
2. 本装置底面の四隅にゴム足を取り付けます。
3. ゴム足を固定するためにネジを取り付けます。



4. ゴム足を取り付けた本装置を平らな卓上に設置します。



2.2.3 壁掛け設置

本装置は、平らな壁に取り付けて運用することができます。

壁に掛けて設置する場合、以下の2パターンがあります。

- マグネットシートを使用する
- 壁掛用品を使用する

マグネットシートを使用する

マグネットシートを使用して、本装置を単体で壁に掛けて設置します。

マグネットシートは、GW2HWMG01（オプション）を使用してください。

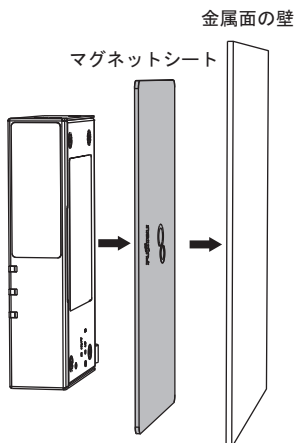
マグネットシートを使用する場合は、本装置にゴム足を取り付けしないでください。

【設置手順】

1. マグネットシートに本装置の底面を固定します。

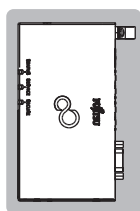
マグネットシートは、富士通ロゴマークが印刷されていない面を、本装置の底面に固定してください。

2. 本装置を固定したマグネットシートを金属面の壁に取り付けます。

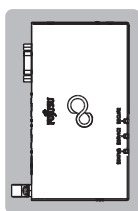


本装置は以下のいずれかの向きで壁に設置してください。

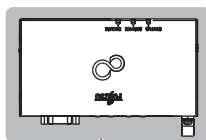
図の上側が天井方向で、図の下側が床方向です。



マグネットシート

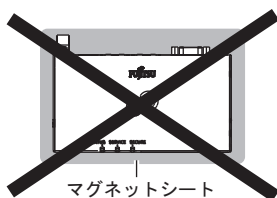


マグネットシート



マグネットシート

以下のように、本装置の背面（ETH ポート側）が天井方向にくる設置形態や、本装置を天井に設置する形態は禁止です。



マグネットシート



マグネットシート



注意！

- マグネットシートと本装置の底面を固定してから、壁に設置してください。
- マグネットシートで壁などに設置する場合には、床から 500mm 以下の高さに設置してください。
- 壁に設置後、落下防止のため、確実に設置されていることを確認してください。
- 設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。
- マグネットシートの磁力が低下することがありますので、定期的に確認してください。
- マグネットシートは本装置 1 台あたり 1 枚使用してください。
- 磁力の影響を受ける装置・媒体には近づけないでください。
- マグネットシートは、磁力が強力なため、取り付ける際には異物や指をはさみ込まないように、十分注意してください。
- 落下して人体に危害を与える場所には設置しないでください。
- 振動や衝撃の多い場所、および不安定な場所には設置しないでください。落下によるけがや故障の原因となるおそれがあります。
- ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に取り付けてください。けがや機器破損の原因となるおそれがあります。
- LAN ケーブルや DC コード、AC アダプターのコードが人体やいすなどにあたらないように、ケーブルの固定などの対策を行ってください。

壁掛用品を使用する

壁掛用品を使用して、本装置を単体で壁に掛けて設置します。

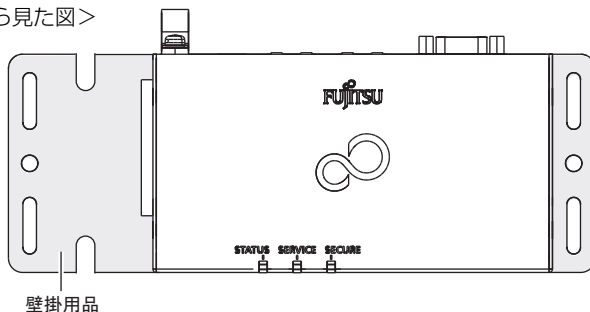
壁掛用品は、GW2HWMK01（オプション）を使用してください。

壁掛用品を使用する場合は、本装置にゴム足を取り付けしないでください。

【設置手順】

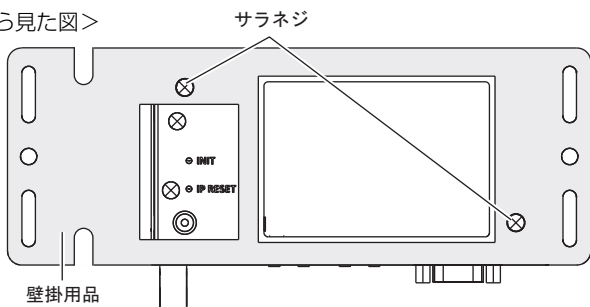
1. 壁掛用品に本装置の底面をセットします。

<上面から見た図>



2. 壁掛用品の底面からサラネジで2箇所、本装置を固定します。

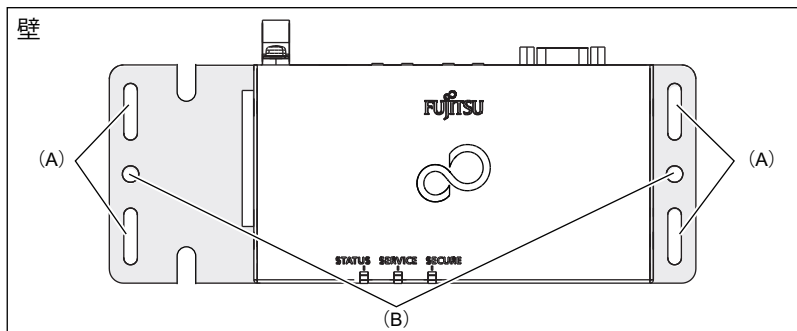
<底面から見た図>



3. 本装置を固定した壁掛用品を壁に取り付けます。

(A)の部分（4箇所）はM4ネジ、(B)の部分（2箇所）はM5ネジで壁に固定します。

なお、ネジは添付していませんので、お客様にて準備してください。



注意！

- 壁に設置後、落下防止のため、確実に設置されていることを確認してください。
- 落下して人体に危害を与える場所には設置しないでください。
- 振動や衝撃の多い場所、および不安定な場所には設置しないでください。落下によるけがや故障の原因となるおそれがあります。
- ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に取り付けてください。けがや機器破損の原因となるおそれがあります。
- LANケーブルやDCコード、ACアダプターのコードが人体やいすなどにあたらないように、ケーブルの固定などの対策を行ってください。
- 壁掛用品を使用して壁に取り付ける際の本装置の向きは、"[マグネットシートを使用する](#)"（P.22）を参照してください。なお、壁掛用品を使用する場合は、本装置の背面（ETHポート側）が天井方向にくる設置形態も可能です。

2.3 モバイルアダプターの接続

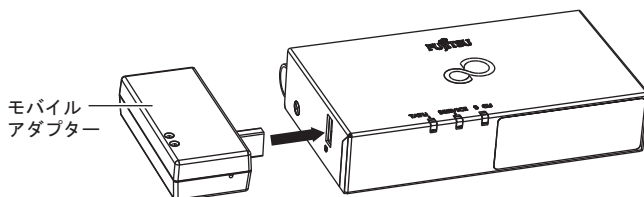
ここでは、オプションのモバイルアダプターを本装置に接続する手順について説明します。取り付けの際は、モバイルアダプターの抜け防止のために「モバイルアダプター取付金具（オプション）」を使用することを推奨します。



モバイルアダプターは、センターとの接続において、GSMまたは3Gによる無線通信接続を行う場合に使用します。

【接続手順】

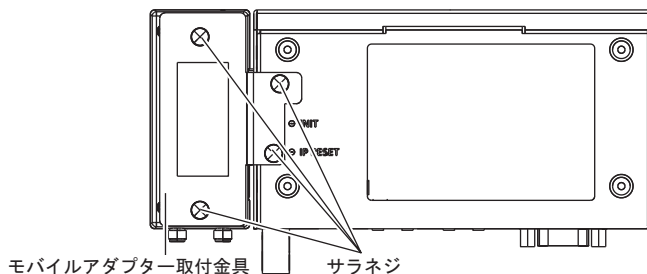
1. 本装置の左側面にある USB ポートにモバイルアダプターを接続します。



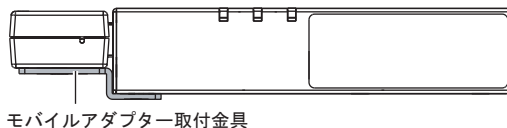
2. モバイルアダプター取付金具（オプション）をご購入時は、以下の手順で取り付けます。

本装置の底面からサラネジで4箇所、モバイルアダプターを固定します。

<底面から見た図>



<前面から見た図>



3. モバイルアダプターを取り付けたあとに、本装置を設置します。

以下のいずれかの形態で本装置を設置します。

- 卓上設置
- 壁掛け設置（壁掛用品を使用）



卓上設置については、"[2.2.2 卓上設置](#)" (P.21) を参照してください。また、壁掛用品を使用した壁掛け設置については、"[壁掛用品を使用する](#)" (P.24) を参照してください。



-
- 壁掛用品を使用する場合は、本装置にゴム足を取り付けないでください。
 - モバイルアダプター取付金具を使用した場合は、マグネットシートを使用した壁掛け設置はできません。
 - モバイルアダプターを本装置から取り外した後、再度接続する場合は、90 秒以上の間隔をあけてください。
 - モバイルアダプターからSIMを抜く場合は、モバイルアダプターを本装置から取り外してから90 秒以上の間隔をあけてください。
-

第3章 本装置の設定

この章では、本装置の設定方法について説明します。

本装置の設定は以下の流れで行います。

- (1) 本装置と設定用パソコンの接続
- (2) 本装置の電源投入
- (3) 設定用パソコンのIPアドレス設定
- (4) 本装置へのログイン
- (5) 本装置に対する設定

3.1 本装置と設定用パソコンの接続

本装置と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

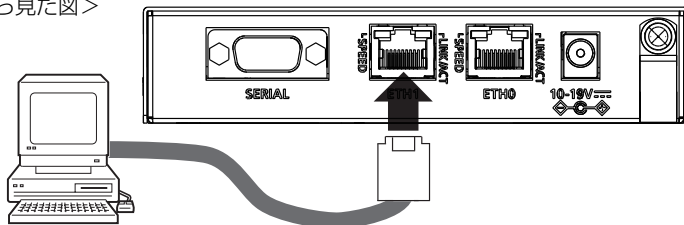


- 本装置にはLANケーブル（RJ45）は同梱されていません。LANケーブルについては、以下の富士通ホームページを参照してください。
<http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable/>
- LANケーブルは、本装置の電源が入っていない状態で接続してください。
- LANケーブル（ツイストペアケーブル）は、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイストペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポートが誤動作したり、壊れたりすることがあります。
機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

【操作手順】

1. 設定用パソコンのLANポートに、LANケーブルの一方の端を差し込みます。
2. 本装置のETH1ポートに、LANケーブルのもう一方の端を差し込みます。

<背面から見た図>





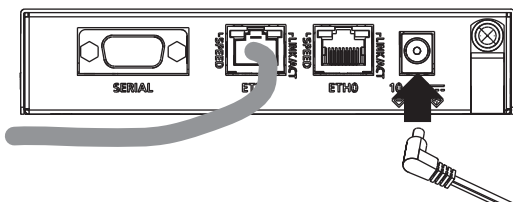
本装置のLANポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。接続したパソコンもオートネゴシエーション機能を有効にすることにより、サポートする最大の速度（最大 100Mbps 全二重モードまで）で、自動的に接続されます。

3.2 本装置の電源投入

本装置と設定用パソコンを接続したあとで、本装置の電源を投入します。

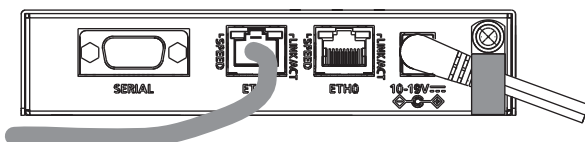
【操作手順】

1. 本装置背面の電源コネクタに、同梱のDCコードのプラグを差し込みます。または、ACアダプター（オプション）のプラグを差し込みます。

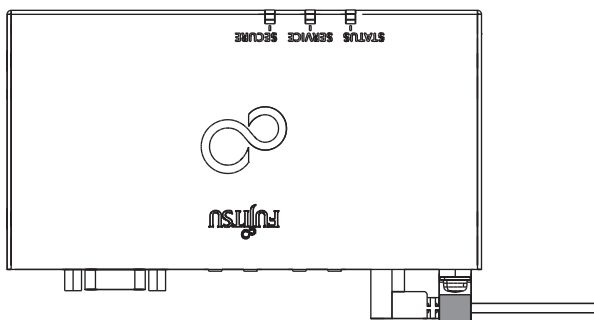


2. DCコードまたはACアダプターの抜けを防止するために、ナイロンクリップに通して固定します。

<背面から見た図>



<上面から見た図>



⚠ 警告

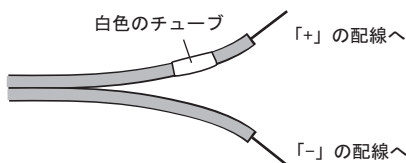
DCコードまたはACアダプターに外部からの張力が加わると、断線・接触不良を起こし、感電・火災の原因となるおそれがあります。

- DC コードの一方（プラグがついていない方）を、接続する電源の環境に合わせて配線します。AC アダプター（オプション）の場合はプラグをコンセントにながめます。



注意！

DC コードの場合は、コードの「+」と「-」に留意して配線してください。
コードに白色のチューブが巻き付いている方が「+」になります。



注意

- DC コードを接続するときは、必ず給電側装置からの給電を止めた状態で行ってください。感電の原因となるおそれがあります。
- DC コードで給電するときは、必ず装置と外部電源供給装置出力部に以下のサーキットブレーカ（認定品）を設置してください。
 欧州：IEC60947-2
 北米：UL489, CSA C22.2 No.5.1
 日本：JIS C8201-2（低圧開閉装置）
 その他：IEC60947-2 相当の設置国内の安全規格に準拠
 サーキットブレーカの最大定格電流：3A
 サーキットブレーカは、必ず両極を同時に瞬断するデバイスを使用してください。
- 使用するサーキットブレーカおよび瞬断デバイスは、"[2.1.1 設置条件の確認](#)" (P.17) の「電源条件」に記載された装置仕様に対して誤動作のないものを選択してください。

- 本装置に電源が投入されたことを確認します。

電源が入ると、しばらくして、本装置上面の STATUS ランプが緑色に点滅し、本装置が起動中であることを示します。その後、正常に起動すると、STATUS ランプが緑色に点灯します。

STATUS ランプが赤色に点灯した場合は装置故障です。

各ランプの意味については、"[1.1.4 本装置 上面/ランプ](#)" (P.14) を参照してください。

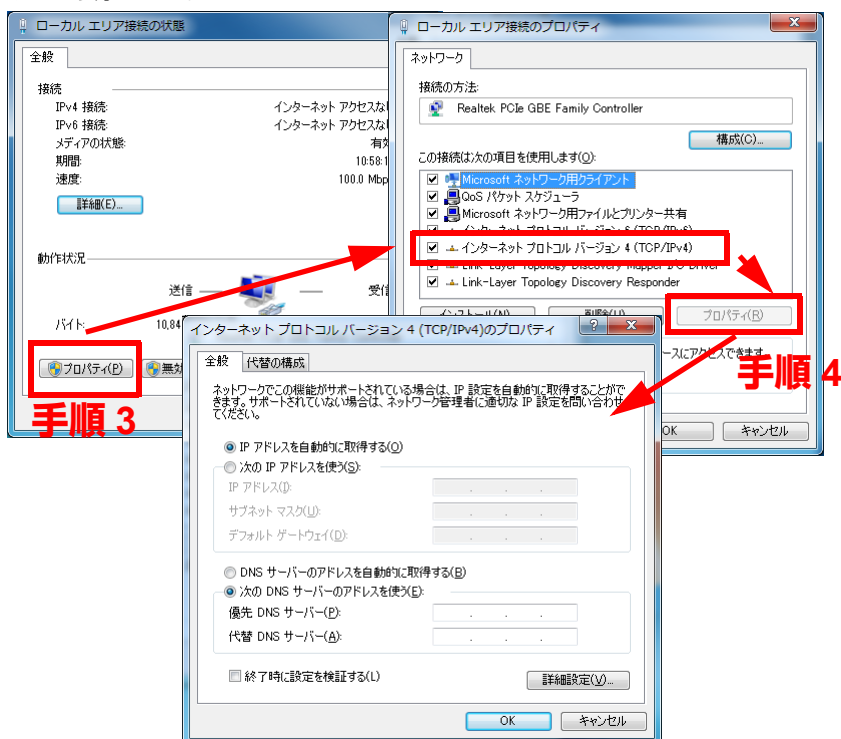
3.3 設定用パソコンのIPアドレス設定

設定用パソコンのIPアドレスを設定します。

ここでは、Windows 7の場合を例に説明します。

【操作手順】

1. 【コントロールパネル】を起動します。
2. 【ネットワークとインターネット】 - 【ネットワークと共有センター】 - 【ローカルエリア接続】を選択します。
[ローカルエリア接続の状態] ダイアログボックスが表示されます。
3. 【プロパティ】 ボタンをクリックします。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. 「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、【プロパティ】 ボタンをクリックします。
[インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



5. 設定用パソコンのIPアドレスを指定します。

「次のIPアドレスを使う」を選択し、本装置と同じネットワークのIPアドレス/サブネットマスクを指定します。

本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。

6. 表示しているダイアログボックスが終了するまで【OK】ボタンをクリックします。



設定用パソコンのIPアドレスの設定が終了したあと、ping コマンドを実行して、ネットワークの疎通確認を行ってください。

本装置のIPアドレスが「192.168.1.1」の場合の例を以下に示します。

```
c:\>ping 192.168.1.1
192.168.1.1 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.1.1 からの応答: バイト数=32 時間=XXms TTL=127
192.168.1.1 からの応答: バイト数=32 時間=XXms TTL=127
192.168.1.1 からの応答: バイト数=32 時間=XXms TTL=127
192.168.1.1 からの応答: バイト数=32 時間=XXms TTL=127

192.168.1.1 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4、受信 = 4、損失 = 0 (0% の損失)
ラウンドトリップの概算時間 (ミリ秒):
    最小 = XXms、最大 = XXms、平均 = Xms

c:\>
```


3.4 本装置へのログイン

本装置へのログインは、ssh（セキュアシェル）を使用します。

sshでログインするには、ssh クライアントソフトウェアが別途必要です。



- 本装置では ssh プロトコルバージョン2 をサポートしている ssh クライアントソフトウェアを使用してください。
- パスワード入力時、2 分間入力がないと ssh が切断されます。
- ssh でログイン後、15 分間（ご購入時の状態）入力がないと ssh が切断されます。ログイン後から自動ログアウトするまでの時間は、sshinfo autologout コマンドで変更することができます。

【操作手順】

1. ssh で本装置に接続します。

使用する ssh クライアントソフトウェアによって、表示が多少異なりますが、接続先のホストに、本装置の IP アドレスを指定します。本装置のご購入時の IP アドレスは「192.168.1.1」です。ポート番号は「50022」固定です。

また、ssh のバージョンには「SSH2」を指定します。

2. ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名に「admin」と入力します。パスワードは「m2msgw!admin」と入力します（ご購入時）。



- パスワードは運用開始までに必ず変更してください。
- パスワードは推測されにくいように、9 文字以上で英字、数字、記号を組み合わせて設定してください。
- 設定したパスワードは運用中も定期的に変更するようにしてください。

3. [Enter] キーを押して、本装置にログインします。

ログイン直後は運用管理モードの状態です。

3.5 本装置に対する設定

本装置へのログイン後、以下の情報を本装置に設定します。設定はコマンドで行います。

- 本装置の時刻設定
- 本装置の固有情報（ID/パスワード）の設定
- ライセンス情報の設定（機器管理ライセンス契約時のみ）
- 本装置の IP アドレスの設定

- 本装置の拠点 LAN 側からの ICMP エコー応答（Ping 応答）の有効無効の設定（V02L02 以降）
- 本装置に接続する機器に関する情報の設定



モバイルアダプター（オプション）を接続する場合の設定は、『取扱説明書』を参照してください。

3.5.1 本装置の時刻設定

本装置を運用する前に、本装置に対して時刻を設定します。

時刻の設定は、date コマンド（運用管理コマンド）を使用します。



センターとの最初の定期通信時に、センターから時刻が配信されて時刻同期が行われます。そのため、date コマンドによる時刻設定は必須ではありません。



本装置の電源を切ると、時刻情報は失われます。

【設定手順】

1. date コマンドを実行して、現在の時刻を設定します。

以下に、「2013 年 12 月 1 日 12 時 30 分 00 秒」を設定する場合の指定例を示します。

```
# date 2013/12/01.12:30:00
```

3.5.2 本装置の固有情報（ID/パスワード）の設定

以下のコマンドで、本装置の固有情報を設定します。

- 本装置の ID の設定（sgw id コマンド）
- 本装置のパスワードの設定（sgw password コマンド）

【設定手順】

1. configure コマンドを実行して、構成定義モードに移行します。

```
# configure
```

2. sgw id コマンドを実行して、本装置の ID（FENICS-ID）を設定します。

```
# configure
(config)#
(config)# sgw id xxxx
```

3. **sgw password コマンドを実行して、本装置のFENICS-IDに対するパスワードを設定します。**

```
(config)# sgw password yyyy
```



FENICS II M2M サービスで指定された ID とパスワードを設定してください。センターとの通信認証（初期通信、定期通信、FTP、SSL-VPN 接続）に使用されます。

3.5.3 ライセンス情報の設定



この操作は、オプションの機器管理ライセンスを購入されたお客様のみ必要となります。機器管理ライセンスを購入されていない場合は、["3.5.4 本装置の IP アドレスの設定" \(P.36\)](#) にお進みください。

本装置は初期状態で 10 台までお客様の機器を接続することができますが、接続台数を増やす場合は、オプションの機器管理ライセンスを購入する必要があります。機器管理ライセンスには以下の 3 種類があります。

機器管理ライセンス 10: 本装置に接続する機器の台数を 10 台追加できます。

機器管理ライセンス 50: 本装置に接続する機器の台数を 50 台追加できます。

機器管理ライセンス 100: 本装置に接続する機器の台数を 100 台追加できます。

【設定手順】

1. **instrument license key コマンドを実行して、ライセンス情報を設定します。**

コマンドのオプションにはライセンスキー（16 文字の英数字記号）を入力します。機器管理ライセンスを複数購入されている場合は、この操作を購入分行います。ライセンスキーは機器管理ライセンスの「ライセンス許諾書」に記載されています。

ライセンスキーの入力例を以下に示します。正しいライセンスキーを下線部に入力してください。

```
(config)# instrument license key xxxxxxxxxxxxxxxxx
```



「ライセンス許諾書」は、装置故障などによって装置交換する際など、構成定義情報を復元する際に必要になります。大切に保管してください。

2. **ライセンス情報が正しく適用されたことを確認します。**

show instrument license コマンドを使用します。

以下の例では、初期状態の 10 台に加えて「機器管理ライセンス 10」を購入した場合を示しています（合計で 20 台の機器の接続が可能）。

```
# show instrument license
registered license key:
xxxxxxxxxxxxxxx license :10
assigned license count :20
remaining license count :18
registered instrument count :2
#
```

3.5.4 本装置のIPアドレスの設定

お客様のネットワーク環境に合わせて、必要に応じて本装置のIPアドレスを変更します。

【設定手順】

1. lan ip address コマンドを実行して、本装置のIPアドレスを設定します。

コマンドの入力形式：

```
lan [<number>] ip address [<count>] <address>/<mask> <broadcast>
```

```
(config)# lan 2 ip address 1 192.168.1.1/24 0
```



ご購入時のIPアドレスをそのまま使用しても構いませんが、本装置のIPアドレスを変更した場合は、設定用パソコンのIPアドレスも変更してください。

3.5.5 本装置の拠点LAN側からのICMPエコー応答（Ping応答）の有効無効の設定（V02L02以降）

お客様の環境に合わせて、必要に応じて本装置の拠点LAN側からのPing応答の有効無効を変更します。

【設定手順】

1. icmp echo-reply コマンドを実行して、本装置の拠点LAN側からのICMPエコー応答の有効無効を設定します。

コマンドの入力形式：icmp echo-reply <mode>

```
(config)# icmp echo-reply disable
```



ご購入時のデフォルト設定は（ICMPエコー応答有効：enable）です。ICMPエコー応答が不要であればセキュリティ向上のため（ICMPエコー応答無効：disable）に変更してください。

3.5.6 本装置に接続する機器に関する情報の設定

ここでは、本装置に接続する機器の情報を設定します。

接続する台数分、設定する必要があります。

設定には以下のコマンドを使用しますが、実行する順番は問いません。

- instrument register id コマンド（機器のユーザー ID の設定）
- instrument register info コマンド（機器の固有情報の設定）
- instrument register connect-type コマンド（機器の ping 監視対象有無の設定）
- instrument register monitoring-info コマンド（監視対象の機器の情報の設定）

【設定手順】

1. instrument register id コマンドを実行して、機器のユーザー ID を設定します。

コマンドの入力形式：instrument register <number> id <id>

<number> には機器の定義番号（1～110 の 10 進数）を指定します。<id> には機器のユーザー ID（15 文字以内の英数字）を指定します。

```
(config)# instrument register 1 id dev001
```



本装置に接続する台数分、ID を設定する必要がありますが、設定の手順としては以下のいずれでも構いません。

- 接続する台数分、手順 1 を実行（ID を設定）してから、同様に、手順 2～手順 4 を実行する。
- 1 台分に対して、手順 1～手順 4 をセットで実行したあとで、台数分の設定を繰り返す。

2. instrument register info コマンドを実行して、機器の固有情報を設定します。

コマンドの入力形式：instrument register <number> info <info>

<number> には機器の定義番号（1～110 の 10 進数）を指定します。<info> には機器の固有情報を 39 文字以内の ASCII 文字列で指定します。指定できる ASCII 文字列については、『取扱説明書』を参照してください。

```
(config)# instrument register 1 info FAX-01
```

3. instrument register connect-type コマンドを実行して、機器を ping 監視の対象とすることが設定します。

コマンドの入力形式：instrument register <number> connect-type <type>

<number> には機器の定義番号（1～110 の 10 進数）を指定します。<type> には接続する機器を ping 監視の対象とすることが指定します。接続する機器が ICMP サポート機器の場合（ping 監視の対象とする場合）は「1」を、ICMP 未サポート機器の場合（ping 監視の対象としない場合）は「0」を指定します。

```
(config)# instrument register 1 connect-type 1
```

4. instrument register monitoring-info コマンドを実行して、監視対象とする機器の情報を設定します。

コマンドの入力形式：instrument register <number> monitoring-info <address>
<number>には機器の定義番号（1～110の10進数）を指定します。<address>には機器のIPアドレスを指定します。

```
(config)# instrument register 1 monitoring-info 192.xx.xx.xx
```

5. save コマンドを実行します。

設定した内容が「起動用構成定義情報（startup-config）」に保存されます。

save コマンドを実行しないと設定内容が保存されません。

構成定義情報の種類と流れについては、『取扱説明書』を参照してください。

6. commit コマンドを実行します。



本装置に接続する機器の台数が多い場合、設定を効率良く行うためにCSVファイルを使用することもできます。CSVファイルを使用して接続機器の情報を設定する場合は、弊社の技術員に確認してください。

以上で、本装置に対する最低限の設定は完了です。

3.5.7 設定後の作業

本装置の構成定義情報および機器管理ライセンス情報のバックアップ

本装置に対する設定がひと通り完了したら、現時点の構成定義情報および機器管理ライセンス情報のバックアップファイルを作成してください。

作成したバックアップファイルは、万一、本装置が故障した場合に弊社で復旧作業を行う際に必要となります。

バックアップ手順の詳細は、『取扱説明書』の"ファイルの退避"を参照してください。



注意！

構成定義情報および機器管理ライセンス情報をバックアップしたファイルがない場合は、復旧までに時間がかかる場合があります。

ライセンス許諾書の保管（機器管理ライセンスをご購入時）

オプションの機器管理ライセンスをご購入頂いている場合は、ライセンス許諾書を大切に保管してください。装置故障などによって装置交換する際など、構成定義情報を復元する際に必要になります。

基本ソフトウェア版数の確認

万一、本装置が故障して修理品と交換した場合、修理品の基本ソフトウェア版数と、故障時の基本ソフトウェア版数が異なる場合があります。復旧をスムーズに行うためにも、現状の基本ソフトウェア版数を控えておくことをお勧めします。

基本ソフトウェア版数は、show version コマンドで確認することができます。

show version コマンドの詳細は、『取扱説明書』の"■show version"を参照してください。

センターとの接続

本装置の設定が完了したら、センター（M2M サービス基盤側）との接続を行います。

本装置とセンターとの接続形態には以下の2種類があります。

- インターネットを介した SSL-VPN 接続
- GSM または 3G による無線通信接続（オプション）

接続形態の詳細は、『取扱説明書』を参照してください。

中継ルール、フィルタルールの設定

"3.5.6 本装置に接続する機器に関する情報の設定" (P.37) で設定した機器の情報を、本装置を経由してセンターに通知したり、センターから本装置に接続された機器にアクセスするためには、中継ルールとフィルタルールを設定する必要があります。中継ルールとフィルタルールは、CSV ファイルで作成します。

詳細は、『取扱説明書』を参照してください。

設定内容のクリア

本装置を誤って設定した場合やトラブルが発生した場合は、以下のいずれかの方法で本装置の設定内容をご購入時の状態に戻すことができます。

- 本装置底面の INIT スイッチを長押しする
- reset clear コマンドを実行する

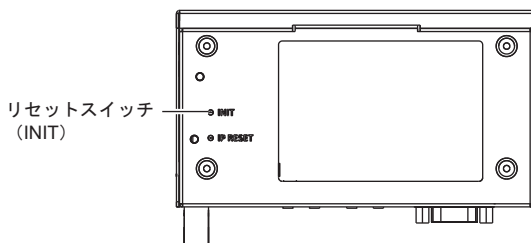


ご購入時の状態に戻すと、それまでの設定内容がすべて失われます。構成定義情報を退避しておくことをお勧めします。
構成定義情報の退避については、『取扱説明書』を参照してください。

● 本装置底面の INIT スイッチを長押しする

本装置底面の INIT スイッチを長押し（約 2 秒間）することで、本装置の設定内容をご購入時の状態に戻すことができます。

<背面から見た図>



● reset clear コマンドを実行する

reset clear コマンドを実行することで、本装置の設定内容をご購入時の状態に戻すことができます。

```
# reset clear
```


FCCについて

FCC WARNING:

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

NOTE:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

使用許諾について

■ Java SE Embeddedの取り扱いについて

本装置には、米国 Oracle America, Inc（以下「Oracle社」といいます）製 Java SE Embedded（以下「JAVA SE」といいます）を含んでおります。弊社では、本装置をお客様がご使用するにあたり下記「ご使用条件」にご同意いただくことを条件とさせていただいております。なお、お客様が本装置をご使用された時点で、本「ご使用条件」にご同意いただいたものとみなしますのでご注意ください。

ご使用条件

- (1) お客様は、JAVA SE の class、interface、subpackage 等のうち、“Java”、“Javax”、“Sun”等の名称等で特定されているものを、改変・改造したり、そのふるまいを変更したりすることはできません。
- (2) お客様は、JAVA SE に付されている Oracle 社が所有する Java の商標、ロゴマーク、アイコン（「the Coffee Cup and Duke(“Java Mark”）」を含みます）を、変更、削除、隠蔽等しないものとします。
- (3) Java SE には、ソースコードが含まれています。本ソースコードは、参照目的のためだけに使用することができます。
- (4) Java SE に含まれる第三者の著作権、使用条件については、本製品に添付されているソフトウェア CD（フォルダー名「Java」）に電子データとして格納された「THIRDPARTYLICENSEREADME.pdf」の事項が適用されます。
- (5) お客様が、営利目的または製造目的で下記 URL にある Java SE に関するドキュメントの Table 1-1 (Commercial Features In Java SE Product Editions) 記載の機能（Commercial Features）を使用しようとする場合には、お客様は、別途 Oracle 社から必要なライセンスを取得する必要があります。
URL : <http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html>
- (6) 弊社および Oracle 社は、JAVA SE が将来も継続して提供されること、および、アップデートされることを約束するものではありません。また、弊社および Oracle 社は、JAVA SE について、別途明示されない限り、なんらの保証を行うものではありません。

監査について

Oracle 社および弊社は、お客様に対して事前に通知を行い、日程等について協議した上で、本製品の使用条件に関する履行状況について監査を行うことができるものとします。なお、お客様は、弊社が当該監査を行うにあたり、本製品の使用条件の履行状況に関する資料をすみやかに提出する等、必要な協力を行うものとします。

■ OSS の取り扱いについて

本装置には、以下のオープンソースソフトウェア（以下「OSS」といいます）が搭載されています。各 OSS に適用される使用許諾条件については、本製品に添付のソフトウェア CD（フォルダー名「Linux」）に電子データとして格納されている「使用許諾条件一覧」の内容を確認ください。

また、各 OSS に対応するそれぞれの使用許諾条件に基づき、ソースコードの入手を希望される方は、ソフトウェア CD（フォルダー名「Linux」）に格納されたファイル、または下記 URL より入手することが可能です。

入手の際は、「[GW1500 のホームページ](#)」(P.46) に記載のダウンロード用アカウントが必要です。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/network/mobile/m2m/download/>

各 OSS に適用される条件は、次のとおりです。

- (1) 使用許諾条件名称 : Apache License Version 2.0

OSS 名称 : commons-ne,log4,xalan-j

- (2) 使用許諾条件名称 : BSD License

OSS 名称 :

bzip2,bzip2-libs,cyrus-sasl-lib,db4,eventlog,file-libs,fipscheck-lib,iperf,libcap,libedit,libnet,libssh2,libuuid,lighttpd,lighttpd-fastcgi,mktemp,openssh,openssh-askpass,openssh-clients,openssh-server,openssh-server-bash,pam,pam_ssh_agent_auth,pcre,perl-Crypt-DES,tcp_wrappers-libs,telnet-server

- (3) 使用許諾条件名称 : BSD License and GNU General Public License version 2

OSS 名称 : shadow-utils

- (4) 使用許諾条件名称 :

BSD License and GNU General Public License version 2 and GNU Library General Public License version 2.0 and MIT License

OSS 名称 : linux-atm-libs

- (5) 使用許諾条件名称 :

BSD License and GNU Lesser General Public License version 2.1 and GNU General Public License version 2 and Public Domain

OSS 名称 : ppp

- (6) 使用許諾条件名称 : BSD License and MIT License

OSS 名称 : perl-YAML-Syck

- (7) 使用許諾条件名称 : GNU General Public License version 2

OSS 名称 :

MAKEDEV,bash,busybox,busybox-static,chkconfig,coreutils,cpio,dbus-libs,e2fsprogs,esmtplib,ethtool,gawk,gdbm,grep,hostname,hwdata,i2c-tools,i2c-tools-perl,initcripts,initcripts-bash,iptables,kernel,lm_sensors,lm_sensors-bash,lm_sensors-libs,logrotate,mingetty,module-init-tools,module-init-tools-bash,mtd-utils,net-tools,pciutils-libs,perl,perl-Archive-Extract,perl-Archive-Tar,perl-CPAN,perl-CPANPLUS,perl-Compress-Raw-Bzip2,perl-Compress-Raw-Zlib,perl-Config-IniFiles,perl-DBI,perl-Date-Manip,perl-Digest-SHA,perl-ExtUtils-CBuilder,perl-ExtUtils-Embed,perl-ExtUtils-MakeMaker,perl-ExtUtils-ParseXS,perl-File-Fetch,perl-HTML-Parser,perl-HTML-Tagset,perl-IO-Compress,perl-IO-Zlib,perl-IPC-Cmd,perl-Log-Message,perl-Log-Message-Simple,perl-MD5,perl-Module-Build,perl-Module-CoreList,perl-Module-Load,perl-Module-Load-Conditional,perl-Module-Loaded,perl-Module-Pluggable,perl-Net-Daemon,perl-Object-Accessor,perl-Package-Constants,perl-Params-Check,perl-Parse-CPAN-Meta,perl-PIRPC,perl-Pod-Escapes,perl-Pod-Simple,perl-Term-UI,perl-Test-Harness,perl-Test-Simple,perl-Time-Piece,perl-TimeDate,perl-URI,perl-XML-Parser,perl-XML-Simple,perl-core,perl-libs,perl-libwww-perl,perl-parent,perl-suidperl,perl-version,psmisc,readline,rp-pppoe,rpm,rpm-bash,sed,sysfsutils,syslog-ng,sysvinit-tools,tar,udev,udev-bash,U-boot,utvpn-unix,softether-vpnclient

- (8) 使用許諾条件名称 : GNU General Public License version 2 and BSD License and Public Domain

OSS 名称 : util-linux-ng

- (9) 使用許諾条件名称 :
GNU General Public License version 2 and GNU Lesser General Public License version 2.1
OSS 名称 : gettext, glib2, glibc, glibc-bash, glibc-common, upstart
- (10) 使用許諾条件名称 :
GNU General Public License version 2 and GNU Library General Public License version 2.0
OSS 名称 : e2fsprogs-libs, procps
- (11) 使用許諾条件名称 :
GNU General Public License version 2 and GNU Library General Public License version 2.0 and BSD License and Public Domain
OSS 名称 : util-linux-ng-bash
- (12) 使用許諾条件名称 : GNU General Public License version 2 and Public Domain
OSS 名称 : iproute
- (13) 使用許諾条件名称 : GNU General Public License version 2 with exceptions
OSS 名称 : elfutils-libelf, vsftpd, vsftpd-bash
- (14) 使用許諾条件名称 : GNU General Public License version 3 with exceptions
OSS 名称 : libgcc, libstdc++
- (15) 使用許諾条件名称 : GNU Lesser General Public License version 2.1
OSS 名称 : audit-libs, cracklib, cracklib-dicts, gamin, gettext-libs, libacl, libattr, libblkid, libcap-ng, libesmtp, libidn, libsepol, libsysfs, libusb, nspr, nss, nss-softokn, nss-softokn-freebl, nss-sysinit, nss-util
- (16) 使用許諾条件名称 : GNU Library General Public License version 2.0
OSS 名称 : rpm-libs
- (17) 使用許諾条件名称 : Internet Systems Consortium License
OSS 名称 : dhclient, dhclient-bash, dhcp
- (18) 使用許諾条件名称 : MIT License
OSS 名称 : curl, libcom_err, libcurl, libss, libxml2, ncurses, ncurses-base, ncurses-libs, perl-Locale-Maketext-Simple, perl-WWW-Curl, popt
- (19) 使用許諾条件名称 :
MIT License and BSD License and Internet Systems Consortium License and GNU Library General Public License version 2.0
OSS 名称 : cronie, cronie-anacron, cronie-noanacron
- (20) 使用許諾条件名称 : NTP License
OSS 名称 : ntp, ntp-bash, ntp-perl, ntpdate
- (21) 使用許諾条件名称 : OpenLDAP License
OSS 名称 : openldap
- (22) 使用許諾条件名称 : OpenSSL License
OSS 名称 : openssl
- (23) 使用許諾条件名称 : Public Domain
OSS 名称 : perl-DBIx-Simple, setup, sqlite, tzdata
- (24) 使用許諾条件名称 : Public Domain and GNU General Public License version 2
OSS 名称 : crontabs, crontabs-bash
- (25) 使用許諾条件名称 : Public Domain and MIT License
OSS 名称 : mailcap
- (26) 使用許諾条件名称 : xinetd License
OSS 名称 : xinetd, xinetd-bash
- (27) 使用許諾条件名称 : zlib License
OSS 名称 : zlib

■ 改造とリバースエンジニアリングを許諾するプログラムについて

本ソフトウェアに含まれる以下のプログラムは、GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1により許諾される範囲に限り、改変とリバースエンジニアリングを行えるものとします。

使用許諾条件名称：GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1

ファイル名：

```
/opt/l3/intfstctld  
/opt/mbladp/celdglcrdnt  
/opt/mbladp/m2miftrans  
/opt/sslvpn/sslvpncrdnt  
/opt/filter/filter  
/opt/devmng/datachktool  
/opt/devmng/devlog_test  
/opt/devmng/stress_test1  
/opt/devmng/signmon  
/opt/devmng/tp_nm  
/opt/devmng/cpulimit  
/opt/devmng/tp_led  
/opt/devmng/stress_test  
/opt/devmng/tp_datachk  
/opt/devmng/lites_mem_dump  
/opt/devmng/rasapl  
/opt/devmng/wdtctl  
/opt/devmng/swmon  
/opt/devmng/usbpwrrmon  
/opt/devmng/tp_nv  
/opt/devmng/tp_sw  
/opt/devmng/startupchk  
/opt/devmng/tempmon  
/opt/devmng/execcchk  
/opt/devmng/tp_rasapl_debug  
/opt/cli/cli_webinfo  
/opt/cli/cli_date  
/opt/cli/settimeinfoserver  
/opt/cli/cli_relay  
/opt/cli/cli_dir  
/opt/cli/cli_version  
/opt/cli/cli_ether  
/opt/cli/cli_route  
/opt/cli/cli_restore  
/opt/cli/cli_ping  
/opt/cli/cli_sgw  
/opt/cli/cli_pppoe  
/opt/cli/cli_sh  
/opt/cli/cli_cellular  
/opt/cli/cli_consoleinfo_auto  
/opt/cli/cli_telnetinfo  
/opt/cli/cli_sshinfo  
/opt/cli/cli_password  
/opt/cli/cli_com_lan  
/opt/cli/cli_lan_dhcp  
/opt/cli/cli_interface
```

/opt/cli/cli_traceroute
/opt/cli/cli_update
/opt/cli/cli_dnssrv
/opt/cli/cli_serial
/opt/devmng/lites_log_out
/opt/devmng/periodicchk
/opt/devmng/cpu_usage
/opt/relay/baseTermination
/opt/relay/eventrouter
/opt/relay/tcpudptest/tcptest_client
/opt/relay/tcpudptest/udptest_client
/opt/relay/tcpudptest/udptest_server
/opt/relay/tcpudptest/tcptest_server
/opt/relay/app01/app01.so
/opt/relay/combufcmd/combufcmd
/opt/relay/app02/app02.so
/opt/relay/app03/app03.so
/opt/utvpn/utvpncmd
/opt/utvpn/utvpnclient
/opt/vpn/vpncmd
/opt/vpn/vpnclient
/opt/cli/cli_rdate
/opt/cli/cli_sysname
/opt/cli/cli_socket
/opt/cli/cli_logging
/opt/cli/cli_instrument
/opt/cli/cli_reset
/opt/cli/cli_lan
/opt/cli/cli_telnet
/opt/cli/cli_ip_dhcp
/opt/cli/cli_ipv6_dhcp
/opt/cli/cli_rename
/opt/cli/cli_proxysrv
/opt/cli/cli_com_consoleinfo
/opt/cli/cli_remove
/opt/cli/cli_mflag
/opt/cli/cli_backup
/opt/cli/cli_copy
/opt/cli/cli_infra
/opt/cli/cli_user
/opt/cli/cli_sslvpn
/opt/cli/cli_time
/opt/cli/cli_pwconv
/opt/cli/host
/opt/dhcp/dhcpManager
/opt/instrument/instrumentmng
/bin/rsync
/sgw/usr/lib/lib*.so

以上

富士通株式会社

GW1500 のホームページ

GW1500 の最新の基本ソフトウェア、オープンソースソフトウェア、マニュアルを入手するには、以下の URL からダウンロードしてください。

- URL : <https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/network/mobile/m2m/download/>

ダウンロードするには、以下に示すユーザー ID およびパスワードが必要です。

- ユーザー ID : fenics-m2mgw
- パスワード : m2mgwdownload

「故障かな？」と思ったら

「故障かな？」と思ったらときは、まず、『取扱説明書』の「トラブルシューティング」または「システムログ情報」を参照してください。また、本装置の接続や設定に間違いがないことを確認してください。



注意！

- 本装置の修理は、お客様自身で行わないでください。
- 本装置の保証条件については、本装置に同梱されている「製品保証書」をご覧ください。
- 本装置の保守サポート期間は製品出荷後、5年です。なお、無償保証期間は1年とし、センドバック保守とします。

GW1500 スタートガイド

TA90002-5659

発行日 2020年4月

発行責任 富士通株式会社

-
- 本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
 - 本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
 - 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、弊社はその責を負いません。
 - 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。